

音楽科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成24年11月〇日 (〇)
- 2 場 所 視聴覚室
- 3 学年・組 第2学年〇組
- 4 題 材 曲想に合わせて表現を工夫しよう
- 5 教 材 「これはなんとすばらしい音だ」
(W.A.モーツァルト 作曲／長谷部匡俊 編曲)
- 6 題材の目標 原曲のもつ旋律の感じを捉え、曲にふさわしい器楽表現を工夫して演奏する。

7 題材について 〈題材及び教材観〉

本題材は、A表現(2)アにある「曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。」をねらいとしている。

「これはなんとすばらしい音だ」は、オペラ「魔笛」の中で、逃走を図った登場人物が追い詰められたときに魔法の鈴を鳴らすと、その響きの美しさに追っ手が思わず踊り出してしまふ、というコミカルな場面で演奏される曲を、リコーダー二重奏に編曲したものである。運指が容易で、アーティキュレーションの工夫をしやすい楽曲である。教材として取り上げられている旋律の部分の原曲で聴いてみて、より曲想にふさわしい表現にするには、どのような奏法を使えばよいかを考えさせるのに適していると考えられる。

〈生徒観〉

第2学年の生徒は明るく元気で、どの音楽活動に対しても概ね積極的に取り組むことができる。アルトリコーダーの学習については、楽器に慣れさせるためと運指を忘れないために、第1学年よりほぼ毎時間10分程度取り組む時間を設定し、小さな目標を掲げながら練習を積み重ねてきた。第2学年の前期は、「ラヴァース コンチェルト」の二重奏に取り組み、運指についてはほぼ網羅できているが、リコーダーに対し得意な意識をもつ生徒とそうでない生徒に分かれてきているのが現状である。

〈指導観〉

これまでのリコーダーの学習で、生徒は運指を間違えずに楽曲をスムーズに吹けるか否かに重点を置こうとする傾向にある。また表現については、タンギングや息の量、勢い、フレージングに触れてきたが、これらについてもまだ課題が多い。中学校3年間の学習の積み重ねによって、自分たちが吹いた音や音楽が、その楽曲にふさわしい表現となっているのかよく聴いて工夫改善できる生徒を育てたい。そこで、曲想にふさわしい表現を工夫することができるようアーティキュレーションについて学習し、いろいろな奏法を組み合わせながら聴き手に工夫をしたことが伝えられる表現をめざして、演奏できるようにさせたいと考えた。

また、取り組みに際しては、リコーダーに対し苦手意識の強い生徒がいるため、4人組で

練習し教え合ったり、いろいろな奏法の組み合わせについて意見を出し合ったりしながら学習を進めていくこととする。

8 題材の評価規準

ア, 音楽への関心・意欲・態度	イ, 音楽表現の創意工夫	ウ, 音楽表現の技能
①リコーダーの音色や奏法に関心を持ち、楽曲の曲想にふさわしい奏法を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。	①「これはなんとすばらしい音だ」の旋律の音のつながり方やフレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②「これはなんとすばらしい音だ」の曲想を味わい、思いや意図をもって曲にふさわしい音楽表現を工夫している。	①「これはなんとすばらしい音だ」の曲想を味わい、ふさわしい奏法を生かして、器楽表現をする技能を身に付けている。

9 指導と評価の計画 (3時間)

時間	☆ねらい ○学習内容	【評価規準】(評価方法)	共通事項
第1時	☆「これは何とすばらしい音だ」が吹けるようになろう ○アルトリコーダーの音色やフレーズに関心をもって「これは何とすばらしい音だ」の演奏に取り組む。 ○いろいろなアーティキュレーションがあることを知る。	【ア①】(観察)	・音色 ・フレーズ
第2時 (本時)	☆曲想に合ったアーティキュレーションの工夫をしよう ○いろいろなアーティキュレーションの復習をし、奏法の練習をする。 ○「これは何とすばらしい音だ」の原曲を聴く。 ○原曲の曲想を参考に、9小節目までのアーティキュレーションを工夫する。 ○自分たちで考え、奏法を取り入れた演奏を発表する。	【ア①】(観察) 【イ①】 (演奏, ワークシート) 【イ②】(演奏)	・音色 ・フレーズ
第3時	☆曲想に合ったアーティキュレーションの工夫をして演奏しよう ○2人組でアーティキュレーションを考え、練習する。 ○グループごとに発表し、演奏を評価し合う。	【イ②】(演奏) 【ウ①】(演奏)	・音色 ・フレーズ

